backlog by nulab 導入事例集

脱エクセル・脱メールで業務効率 UP 編



nulab

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

エクセル×メールで行うタスク管理の課題を backlog で解決！



｜Backlog導入前｜

課題 1
転送や返信を繰り返し、
情報が混乱

1つのメールの中で複数の議論が飛び交い、後から情報を探すのも手間

課題 2
タスク管理表を別々に更新し、
最新版がわからなくなる

最新版の確認をするために、結局電話やメールでの確認作業が発生

課題 3
メールのやりとりは基本 1 対 1、
タスク管理表の更新が滞ると進捗が見えない

リアルタイムの情報共有ができず、メンバー間に情報格差が発生。

｜Backlog導入後｜

効果 1
タスクごとの会話とファイルで
探す時間も短縮！

タスクの情報 / 会話 / ファイルをあちこち探す必要がありません。

効果 2
担当者が各々のタスクを更新することで
常に最新情報にアクセス可能

チャートでのスケジュール確認や担当者ごとのタスクが確認できます。

効果 3
複数コミュニケーションが基本
情報共有がスムーズに

誰でも最新情報にアクセスできるので不要な進捗報告が不要です。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例｜CASE 01

キリンホールディングス株式会社

メールからExcelに転記する手間が激減。
複数プロジェクトの可視化に成功！



キリンホールディングス株式会社の情報戦略部DXP（デジタルエクスペリエンスプラットフォーム）チームはBacklog導入で複雑化するタスク管理を改善することに成功。ガントチャート、バーンダウンチャートを活用して進捗状況の可視化を実現しました。

業　　種：飲料メーカー
利用部門：情報戦略部DXPチーム

	Backlog 導入前	Backlog 導入後
情報共有・コミュニケーション	■ 各所からのメールの依頼が膨大で対応が必要なタスクが埋もれる ■ 対応履歴、必要な情報を探るのに時間がかかる	■ 膨大な情報が整理され、タスク管理が容易に ■ 必要な情報、履歴が見やすく、簡単に追えるようになった
タスク管理	■ メールからエクセルへの転記の手間がかかる ■ どれだけ注意しても記入漏れが発生	■ 依頼がBacklogで来るようになったので転記の手間がかからない ■ 記入漏れ等のリスクがなくなり運用の質が向上

キリンホールディングス株式会社は、ビールメーカーのキリンビール、清涼飲料水メーカーのキリンビバレッジなどを傘下を持つ企業。キリングループは、食から医にわたる領域で価値を創造し、社会課題に取り組むことで、こころ豊かな社会とお客様の幸せな未来に貢献している。

よろこびがつなぐ世界へ
KIRIN

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“複雑化していたタスク管理がBacklog導入で改善されました”

―― Backlog導入前に抱えていた課題を教えていただけますか。

タスク管理の複雑化ですね。というのも、Backlog導入前は複数プロジェクトに関する情報が全て“メール文化“で動いていました。メールで作業依頼が送られてきて、その情報をエクセルに入力して、タスク管理を行なっていました。

しかし、依頼量自体も膨大で、どれだけ注意していても記入漏れなどが発生し、案件を進めるのに支障が出ていました。

―― Backlogを導入して状況は改善しましたか？

劇的に改善されました。Backlogは案件ごとにプロジェクトを作ることができるので、膨大な情報を整理しやすく効率よく探せます。

Backlogに切り替えたことで、膨大なメールに埋もれていた情報と履歴を簡単に追えるようになったので、メールの情報からエクセルに転記する手間と記入漏れが激減しました。

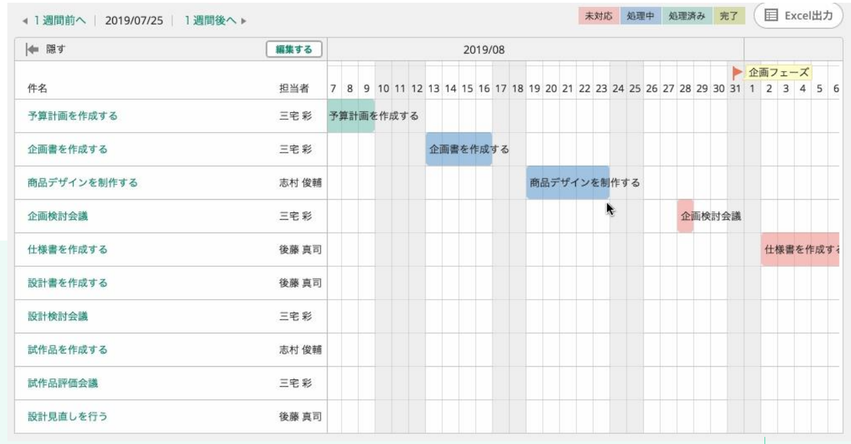
―― その際に何か工夫されていることなどありますか？

Backlog運用の工夫としては、あえて利用する機能を絞り込んでいます。Backlogはプロジェクトに対して細やかな情報、つまり件名、本文、担当者なども入力できますし、さらにはマイルストーンの設定も可能です。確かにそれらの機能は便利なのですが、入力漏れが発生しないとも限らない。また、管理側も管理しにくい側面が出てくる可能性もあるため、シンプルな運用を心がけています。

Backlogは使い方を学ぶ必要がないほど直感的に使えるので、メールからBacklogへの移行もスムーズに行うことができました。

―― チームでの活用方法を詳しく教えていただけますか？

一番多いのはプロジェクトやタスク管理ツールとしての活用ですが、インシデント管理ツールとしても重宝しています。例えばDXPチームのシステムサービスの領域では、トラブルが発生した現象や相談ごとなど、対応の進捗状況を全てBacklogの課題として作成、リーダーの承認、解決までを課題上で管理しています。





プロジェクトの進捗を把握する時に使えるのがガントチャート。各課題の始まりから完了までの流れをひと目で把握できる

―― 社外とのやりとりにもご活用されているとか？

Backlogはカスタマイズしなくてもすぐに利用できるので、各事業会社においても導入ハードルが低く、導入後スムーズに利用開始することができます。

プロジェクトの新規課題は、各事業会社から利用申請（プロジェクトの新規追加）をもらい、プロジェクトを追加しています。すでにBacklog利用歴が長い事業会社も多いので、Backlogのカスタム属性は各事業会社、関連部署にあったカスタマイズもしてもらっています。カスタマイズが簡単に行える点もポイントが高いですね。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例｜CASE 02

株式会社JIMOS

外部ベンダーとの情報共有をスムーズに
その後タスク管理ツールとして全社的に活用



福岡県に本社を置く、スキンケア・コスメ商品販売会社の株式会社JIMOS。2017年より情報システム部内で導入したのをきっかけに、タスク管理や社内外のコミュニケーションにおいて全社的にBacklogを活用いただいています。

業　　種：化粧品メーカー

利用部門：全社で利用

1998年創業のスキンケア・コスメ商品販売会社。オリジナルのエイジングケアブランド「マキアレイベル」や高機能自然派エイジングケア「Coyori」のほか、九州のプレミアム焼酎や健康食品をダイレクトマーケティングで展開する。

	Backlog 導入前	Backlog 導入後
情報共有・コミュニケーション	■ 外部ベンダーとの情報共有をメールと定例会議で行っていたため、確認作業に時間がかかっていた	■ 社内外におけるコミュニケーションの工数が削減され。プロジェクト期間を2/3に短縮 ■ 業務のナレッジがBacklogに蓄積されることで、新入社員も即戦力に
タスク管理	■ エクセルのタスク管理では、都度のメンテナンスが手間で更新が滞ってしまった ■ タスクオーナーの可視化がしづらく、抜け漏れが多かった	■ 誰が何に着手しているかが明確になった ■ コールセンター部門では、商品に関する重要なお知らせやよくある質問などをBacklogに集約。高額なFAQ専用ツールが不要に

jimos
one to only one

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“最大の効果は社内外における コミュニケーションの工数が減ったことです”

―― Backlog導入前に抱えていた課題を教えていただけますか。

社内外のやり取りやタスク管理における、業務効率改善の必要性を感じていました。情報システム部の業務は、システムベンダーなど外部パートナー企業とのやり取りが多いのが特徴です。

当時は、タスクに関するやり取りは、ToDoリストを記載したエクセルファイルをメールで受け渡ししていました。さらに週次の定例会を開催してタスクの進捗状況やスケジュールの確認を行っていたんです。

しかしエクセルだと、都度のメンテナンスが手間で更新が滞ってしまったり、ToDoのタスクオーナーの可視化がしづらかったりといった問題がたびたび発生していました。タスクの抜け漏れも多いことから、オンライン上で更新と共有が簡単にできるツールを探していたんです。

―― Backlogを導入してどんな効果がありましたか？

社内外におけるコミュニケーションの工数が減ったのが最大の成果です。オンライン上ですぐに確認のやり取りができるので、毎週開催していた定例会が不要になりました。ベンダー企業に確認したい事項を、翌週の定例会まで持ち越すタイムロスも解消されたので助かりましたね。

ミーティングとコミュニケーションの工数が削減されたおかげで、6ヶ月間の想定だったとあるプロジェクトの期間が4ヶ月に短縮されたのは驚きでした。コミュニケーションやタスクの進捗管理にツールを活用することで、これほどまでに効率化が図れるのだと実感しましたね。

―― 他部門での効果はいかがですか？

既存のお客様へご案内するDMやウェブサイトの企画・制作を行うリピートチームでは、担当者とタスク完了までの工程が可視化されたことで、チーム内の誰もが進捗をすぐに確認できるようになりました。

またBacklogでは、「去年の同時期にはどのように動いていたか」がすぐ検索できるので、当時のやり取りを参考にしながら仕事を進められるんです。社内のナレッジ共有や育成においても、大いに役立っています。

コールセンターでは、「商品に関する重要なお知らせ」や「よくある質問（FAQ）」など、お客様との応対上で必要な情報を共有するインフラツールとして活用することで、月額数十万円のFAQ専用ツールが不要になったという効果もありました。

Backlogは、もはやJIMOS全社に欠かせないインフラです。これからも社内の業務効率化に努め、ツールをうまく活用していきたいと思います。





毎月送られるDMは、制作物ごとにタスクを分けて子課題で管理。親課題に紐づけることでタスクの関連性も可視化できる。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例｜CASE 03

ダイヤ工業株式会社

エクセルによるタスク管理からの移行で属人化を解消
担当者不在でも柔軟な連携が可能に



創業60年の医療用品メーカーであるダイヤ工業。研究開発、設計、製造、販売まで自社で一貫して行っています。そんな同社では、DXに向けた取り組みを行う上でプロジェクト・タスク管理ツールとしてBacklogを導入しました。

業　　種：製造・メーカー

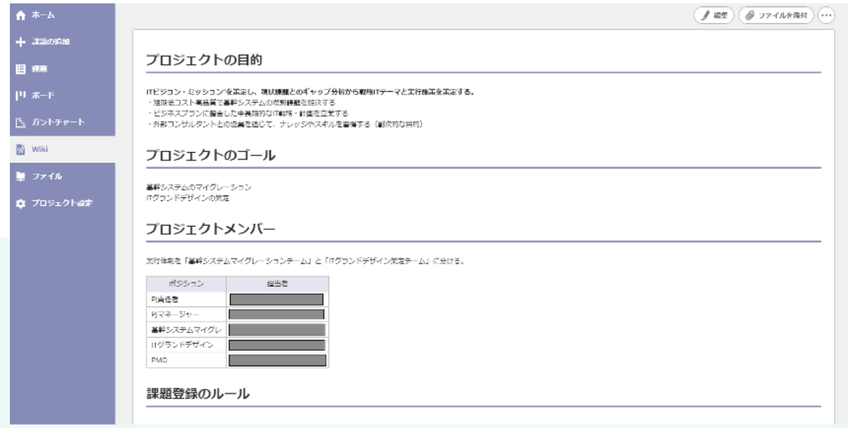
利用部門：全社で利用

	Backlog 導入前	Backlog 導入後
情報共有・コミュニケーション	■ エクセルで管理されるタスクは進捗状況が見えにくく、チーム間のみならずプロジェクト内でも連携が取りにくかった	■ Backlogをプラットフォームとすることで部門やチームを越えた連携がしやすくなり、プロジェクトの動きが円滑に
タスク管理	■ プロジェクトから派生したタスクの管理が個人に任されていたため、業務が属人化 ■ チーム全体のタスクを見通して優先度をつける仕組みがなかった	■ 営業部門では、お問い合わせ内容が共有されることで担当者が不在の場合でも今までよりスムーズな対応が可能になった ■ Backlogが共通のツールになり、個人で管理していたエクセルなどのタスク管理表を探す手間が削減

創業60年の医療用品メーカーであるダイヤ工業は研究開発、設計、製造、販売まで自社で一貫して行っている。同社が目指すのは「健康」の提供ではなく、「健康だから○○できる」という健康のその先にある楽しみを提供すること。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“部門を横断するプロジェクトやテレワーク下でBacklogのメリットを強く感じました”



Backlog導入前に抱えていた課題を教えていただけますか。

プロジェクトの進捗管理は、エクセルで行っていました。担当者やプロジェクトチームごとにフォーマットが異なっていたため、フォーマットに慣れるまで時間がかかったり、それぞれ自分のタスクしか認識していない状況も起こり得る状態でした。

エクセルなどの場合、管理する煩雑さから一部の人しか使わなくなってしまい、結果として全体のタスクの見える化が出来ないままになっていた事もありました。

営業部門ではお客さまと1対1のコミュニケーションを取りながら業務を進めていきます。そのため各自のタスクがどういったもので「何が」「どこまで」「どのように」進んでいるのか、といったことが他のメンバーにはわかりにくい状況にありました。

Backlogを導入して状況は変化しましたか？

全社共通で言えることは、タスクの「見える化」ができるようになったことです。担当者に聞かないとわからない状況から、Backlogを見れば誰でもわかる状態に変化しました。Backlogでは担当者や更新履歴が自動的に記録されますし、優先度に応じたタスクがひと目でわかるので、対応するスピードも向上しました。 Backlogに登録したタスクを完了にすると目に見えてタスクが減っていくので、前進していると実感を持てることも良いと思います。Backlogをプラットフォームとすることで、プロジェクト全体の動きが良くなりました。

営業部門での効果はいかがですか？

営業部門では、Backlogを活用してお客さまからのお問い合わせやお約束事を一覧化しています。チーム全員がすべてのお問い合わせの進捗を見に行ける仕組みを構築できたので、業務の割り振りもスムーズになりました。タスクの属人化が解消され、担当者以外でも、優先度を見極めながら適切な対応が今までよりも容易になりました。

Backlog導入の決め手を教えてください。

直感的な操作性、手厚いサポート体制、Wiki機能の3つです。特にWiki機能は長期間に及ぶプロジェクトを進める上で必須でした。プロジェクトの目的やメンバーの役割を記載し、共通認識を図るために活用しています。



長期間に及ぶプロジェクトを進めるときに、プロジェクトの目的やメンバーの役割をWikiに記載しておくと共通認識を作りやすい

活用によるメリットはどう言った点になるとお考えですか？

Backlogは汎用性が高く、かつどのような業務にも活用できる柔軟性があります。その中でもとくに当社では、部門を横断するプロジェクトや、テレワークのメンバーがいる部署でBacklogのメリットをより強く感じました。たとえば、部門長の週次報告用のプロジェクトを作成し、全部門の進捗確認を行っています。Backlogを活用することで、部門ごとの状況が明確になり、会議を行う際も事前情報がわかっているのでスムーズに進行していくように思います。

※今後Backlogでは、「Wiki」で提供しておりましたナレッジ共有機能を「ドキュメント」に集約してまいります。詳しくはこちらをご覧ください。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

導入事例｜CASE 04

株式会社アダル

無駄なメールリレーはゼロ！
老舗業務用家具メーカーのデジタイゼーション



Backlogを社内のシステム基盤とした株式会社アダル。1日20件は発生していたメールリレーをゼロに、アナログ業務のデジタル化・部署間コラボレーションが加速しました。海外販路拡大のための新規ブランド立ち上げにおける部署間連携のワークフロー構築にも Backlogを活用しています。

	Backlog 導入前	Backlog 導入後
情報共有・コミュニケーション	■ 電話でのタスク共有による認識齟齬の発生 ■ 修正更新のためのコミュニケーション、多い時で1日20件のメールリレーなど、情報共有がスムーズでない	■ コミュニケーションミスが大幅減 ■ 度重なる確認が減り、定例会議は導入前の 25%
タスク管理	■ 内容変更・期限の調整などエクセルによる情報更新に手間がかかる ■ メールにおける読み忘れ、過去の履歴を検索する手間	■ スケジュールと担当者が可視化された ■ 情報共有がスムーズに。メンバーが共通認識をもてる

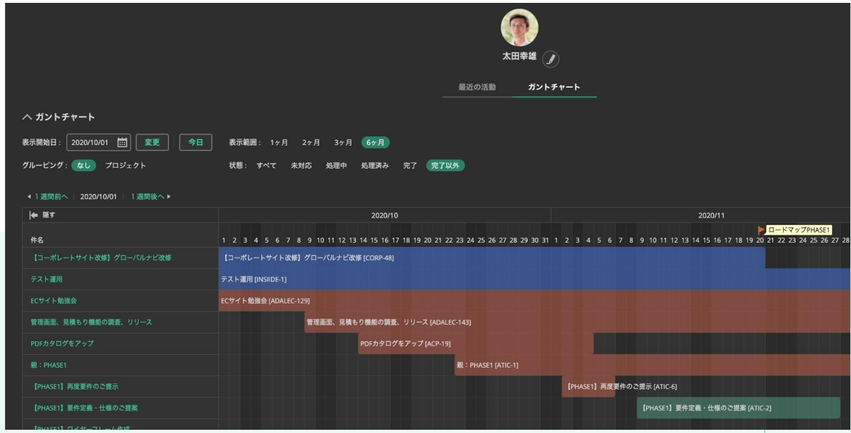
業　　種：業務用家具メーカー
利用部門：IT 事業室、経営企画室、
企画開発室、営業本部
（広報 / PR、アートディレクター、
プロダクト制作、セールス）

1953 年に創業された福岡発の業務用家具メーカー。国内には15 拠点、海外では中国に提携会社として生産工場をもっており、福岡にも総合工場があります。社員数288 名で、そのうち120 名が工場勤務、120 名が営業、40 名がプランニン グ・経営企 画・管理部となっている

はたらく家具をつくる
ADAL
ADVISER FOR AMENITY LIFE

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

“部署間の業務遂行やチーム連携がとてもうまくいくようになりました”





経営企画部IT事業室の太田幸雄さんの1ヵ月間のタスク状況を一見できる ガントチャート。Backlogは個人の業務対応状況をタイムラインで確認できる

Backlog導入前に抱えていた課題を教えていただけますか。

業務に関する情報を一元管理し、情報に素早くアクセスできるツールがなかったため、タスクの重複、遅延、 自然消滅が多発していました。

また、エクセルで作成した工程表の修正対応や進捗管理にともなうコミュニケーションに半日かかることもあり、データ管理に時間を費やさざるを得ない状況を改善したいと考えていました。

Backlog導入前は業務コミュニケーションにメールを使っていましたが、1日に20件もメールで修正依頼をしたり、複数のエクセルデータを送付したりすることが日常茶飯事でした。

Backlogを導入して状況は変化しましたか？

Backlogを導入し、仕事やタスクベースでコミュニケーションを進めることになったので、メールのように情報が散在するということはなくなりました。

対応すべきタスクを明確に可視化できるようになったので、作業状況が見えないことからくる“心理的なあせり”はなくなりましたね。

情報共有についても、メールだと確認しない人が一定数発生してしまい、実際に確認してくれたのかどうかがわからないという問題がありました。Backlogには通知機能があって、相手が内容を確認した場合アイコンにチェックが入るので、「情報が伝わっていることがわかる」という安心感があります。

Backlog を導入して起きた業務マネジメントの効果について教えてください。

タスクの優先順位を明確にできるようになり、経営層からタスクを依頼されたときに、自分のタスクの逼迫状況やプロジェクトの進捗を建設的に説明できるようになりました。Backlogのガントチャートをアダルのサイトの構築プロジェクトで活用しているのですが、社内のマネージャー陣から「各人の業務対応状況が可視化されて、何に詰まっているのかわかりやすくなった」という声もあがってきています。

Backlogを導入したことで会議の進め方などに変化はありましたか？

Backlogを導入したことで進捗確認のための定例会議を大幅に効率化できました。 福岡と東京にいるチームメンバーと代表も含めた5人で週に1回オンラインで定例会議をしているのですが、Backlogの課題一覧画面を表示して、各人の作業の進捗を確認をしています。

遅延している場合はBacklogの課題のコメントを追ってなにがボトルネックになっているのか建設的に議論をして、その場で期限を伸ばすなど、以前より迅速に対応できています。

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

オンラインセミナー・トライアルのご案内

本資料をご覧いただき、メールや電話などのコミュニケーション課題を解決したいと考えた方は
是非、Backlog の無料オンラインセミナーや無料トライアルをご利用ください



オンラインセミナーの概要

- ☑ プロジェクト・タスク管理のBacklogとは？
- ☑ Backlog導入でどんなメリットがあるの？
- ☑ 実際のBacklog画面を見ながら利用シーンを紹介

開催スケジュールはこちら



トライアルの概要

- ☑ 30日間無料で利用できる
- ☑ フォームに情報を入力すると、すぐに開始
- ☑ プランの全機能が使える

無料トライアルはこちら

サービスページはこちら

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.

会社概要

社名	株式会社ヌーラボ
設立	2004 年 3 月
事業内容	チームのコラボレーションを促進するサービスの開発・提供 ● プロジェクト・タスク管理ツール『Backlog』 ● オンラインホワイトボードツール『Cacoo』 ● ヌーラボ製品のセキュリティ＆ガバナンスを強化する『Nulab Pass』 ● ワークフロー自動化ツール『Nulab Flowbase』
本社	福岡県福岡市中央区天神一丁目 11 番 1 号

© 2026 Nulab Inc. All rights reserved.